

(5) リハビリテーション科学部(理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚療法学科)

我が国は、急速に少子・高齢化が進行し、病院や地域における医療水準は高度なチーム医療に依存する時代になってきている。そのような社会と医療職者の環境の変化に対応し、チーム医療を構成する医療職には、自らの専門領域のみならずチームを構成する全ての医療職とその専門性、そのチームの持つ機能について十分な理解を有する能力を備えていることが強く求められている。また、急性期医療から在宅に至るまで、いかなるシチュエーションにおいても最先端の科学的知識を基盤とした高度な技術(Evidence Based Physical Therapy, EBPT, Evidence Based Occupational Therapy, EBOT)により広域社会に貢献する人材の育成も求められている。

リハビリテーション科学部は、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科の3学科からなり、医療に対する社会のニーズの質的・量的変化に対応し、高度な医療技術と科学に基づくリハビリテーションと、それを推進するチーム医療に対応できる人材育成、課題解決能力を有し「リハビリテーション」と「福祉・介護」の連携・統合を実践できる医療人の育成を目的として、本学の教育理念の下、保健・医療・福祉分野で活躍する高度なリハビリテーション専門職(理学療法士/作業療法士/言語聴覚士)の養成をめざしている。

【理学療法学科】

教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての理学療法士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部理学療法学科の教育理念とする。

教育目的

リハビリテーション科学部理学療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉の向上に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域的および国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての理学療法士の養成を本学科の教育目的とする。

教育目標

リハビリテーション科学部理学療法学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 理学療法士に求められる幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の養成
2. 科学的根拠に基づく理学療法科学の専門知識と技術の修得
3. 保健・医療・福祉分野における多職種連携の理解と、理学療法士として主体的に専門技術を提供できる能力の涵養
4. 社会の変化や科学技術の進展に合わせた持続する自己研鑽力の確立
5. 地域社会ならびに国際社会で活躍できる能力の涵養

① 幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の涵養

リハビリテーションを必要とするあらゆる人々の人権を尊重し、患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材を育成する。また、臨床における医療者-患者間のコミュニケーションは、情報伝達や病歴聴取にとどまらず、医療者-患者間の信頼関係の構築と患者教育の動機付けの役割を担っている。患者への適切な情報提供能力、説明能力だけでなく、①支持的態度②共感的態度の習得を含めた医療コミュニケーション能力を涵養することをめざしている。

② 多職種連携の必要性を理解し、主体的に実践できる人材基盤の確立

チーム医療を構成する医療職には、自らの専門領域のみならずチームを構成する全ての医療職とその専門性、そのチームの持つ機能について十分な理解を有する能力を備えていることが強く求められている。自らの専門性とほかの関連職種との役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる人材を育成する。

③ 理学療法学科のめざす人材の育成 - 高い専門性とコミュニケーション能力を持ち、チーム医療を実践できる理学療法士の育成 -

- ・ 地域住民の健康増進の寄与を全面的に実践できる人材の育成
- ・ 身体機能の回復と生活活動の向上を目標とした理学療法を、チーム医療を通して提供できる人材の育成
- ・ 地域に根ざした豊かで活力ある生活を営み、住民が生き生きと社会に参画できるようにサポートできる人材の育成
- ・ 医療従事者としての豊かな人間性、柔軟に対応できる行動力、新たな発想と探究心、豊かな創造性と建設性をもつ人材の育成

学位授与の方針(ディプロマポリシー)

リハビリテーション科学部理学療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。
2. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
3. 理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
4. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
5. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
6. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

リハビリテーション科学部理学療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. リハビリテーション専門職としてふさわしい豊かな人間性の形成、コミュニケーション力の向上を目的に、全学教育科目を1年次から3年次にわたって配当する。
2. 1年次から2年次にかけては、科学的根拠に基づいた理学療法技術を実践するうえで理論的基盤となる専門基礎科目を中心に配当する。
3. 3年次以降は、多様な障害に対して適切な理学療法を実践するために必要な治療ならびに支援技術を学ぶ科目を配当する。また、健康維持・増進の見地から、生活習慣病予防や介護予防、スポーツ障害予防等に対応できる科目も配当する。
4. 3年次から4年次にかけては、研究法や研究セミナーの科目を配当し、社会の変化や科学技術の進展に合わせて、生涯にわたり自己研鑽していく態度を修得させる。
5. 保健・医療・福祉の分野において、関係職種と連携するための協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携に関する実践的な科目を配当する。

6. リハビリテーション専門職である理学療法士としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させ、臨床実践能力を涵養するために、学外での臨床実習を各学年で段階的に展開する。
7. 各授業科目の学修成果は、シラバスに明示された学修目標に対する教員よりの評価および学生アンケートなどの結果から達成状況を評価する。また、1年次における教養や基礎、2年次における臨床への指向、3年次における各専門領域の学修、4年次での総合的実践的能力の獲得といった各段階に応じた学修成果に加え、リハビリテーション科学部理学療法学科所定の教育課程における卒業要件への達成状況を単位取得状況やGPAにより評価する。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

リハビリテーション科学部理学療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる理学療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、理学療法士として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、探求心を持ち、自己を磨く意欲を持っている人

*基礎学力について

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

【作業療法学科】

教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての作業療法士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部作業療法学科の教育理念とする。

教育目的

リハビリテーション科学部作業療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉の向上に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域的および国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての作業療法士の養成を本学科の教育目的とする。

教育目標

リハビリテーション科学部作業療法学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 作業療法士に求められる幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の養成
2. 科学的根拠に基づく作業療法科学の専門知識と技術の修得
3. 保健・医療・福祉分野における多職種連携の理解と、作業療法士として主体的に専門技術を提供できる能力の涵養
4. 社会の変化や科学技術の進展に合わせた持続する自己研鑽力の確立
5. 地域社会ならびに国際社会で活躍できる能力の涵養

① 幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の涵養

リハビリテーションを必要とするあらゆる人々の人権を尊重し、患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材を育成する。また、臨床における医療者-患者間のコミュニケーションは、情報伝達や病歴聴取ことまらず、医療者-患者間の信頼関係の構築と患者教育の動機付けの役割を担っている。患者への適切な情報提供能力、説明能力だけでなく、①支持的態度②共感的態度の習得を含めた医療コミュニケーション能力を涵養することをめざしている。

② 多職種連携の必要性を理解し、主体的に実践できる人材基盤の確立

チーム医療を構成する医療職には、自らの専門領域のみならずチームを構成する全ての医療職とその専門性、そのチームの持つ機能について十分な理解を有する能力を備えていることが強く求められている。自らの専門性とほかの関連職種との役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる人材を育成する。

③ 作業療法学科のめざす人材の育成 - 作業行動学的アプローチの技術と福祉マインドを持つ作業療法士の育成 -

- ・ 豊かな人生をおくるための支援を可能にする人材の育成
- ・ 自らの専門性と他の関連職種との役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる人材の育成
- ・ 患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材の育成
- ・ 住環境・人的環境・地域環境を整え、支援の枠組みを明確にし、支援コーディネーターとしての役割を認知し、その力を発揮できる人材の育成

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

リハビリテーション科学部作業療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。
2. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
3. 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
4. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
5. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
6. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および作業療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

リハビリテーション科学部作業療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. リハビリテーション専門職としてふさわしい豊かな人間性の形成、コミュニケーション力の向上を目的に、全学教育科目を1年次から3年次にわたって配当する。
2. 1年次から2年次にかけては、科学的根拠に基づいた作業療法技術を実践するうえで理論的基盤となる専門基礎科目を中心に配当する。
3. 3年次以降は、多様な障害に対して適切な作業療法を実践するために必要な治療ならびに支援技術を学ぶ科目を配当する。また、健康維持・増進の見地から、生活習慣病予防や介護予防、職業復帰の見地から就業支援等に対応できる科目も配当する。
4. 3年次から4年次にかけては、研究法や研究セミナーの科目を配当し、社会の変化や科学技術の進展に合わせて、生涯にわたり自己研鑽していく態度を修得させる。
5. 保健・医療・福祉の分野において、関係職種と連携するための協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携に関する実践的な科目を配当する。
6. リハビリテーション専門職である作業療法士としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させ、臨床実践能力を涵養するために、学外での臨床実習を各学年で段階的に展開する。
7. 各授業科目の学修成果は、シラバスに明示された学修目標に対する教員よりの評価および学生アンケートなどの結果から達成状況を評価する。また、1年次における教養や基礎、2年次における臨床への指向、3年次における各専門領域の学修、4年次での総合的実践的能力の獲得といった各段階に応じた学修成果に加え、リハビリテーション科学部作業療法学科所定の教育課程における卒業要件への達成状況を単位取得状況やGPAにより評価する。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

リハビリテーション科学部作業療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる作業療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、作業療法士として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、探求心を持ち、自己を磨く意欲を持っている人

*基礎学力について

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

【言語聴覚療法学科】

教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての言語聴覚士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育理念とする。

教育目的

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域のおよび国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての言語聴覚士の養成を本学科の教育目的とする。

教育目標

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 言語聴覚士に求められる幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の養成
2. 科学的根拠に基づく言語聴覚療法科学の専門知識と技術の修得
3. 保健・医療・福祉分野における多職種連携の理解と、言語聴覚士として主体的に専門技術を提供できる能力の涵養
4. 社会の変化や科学技術の進展に合わせた持続する自己研鑽力の確立
5. 地域社会ならびに国際社会で活躍できる能力の涵養

① 幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の涵養

リハビリテーションを必要とするあらゆる人々の人権を尊重し、患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材を育成する。また、臨床における医療者-患者間のコミュニケーションは、情報伝達や病歴聴取にとどまらず、医療者-患者間の信頼関係の構築と患者教育の動機付けの役割を担っている。患者への適切な情報提供能力、説明能力だけでなく、①支持的態度②共感的態度の習得を含めた医療コミュニケーション能力を涵養することをめざしている。

② 多職種連携の必要性を理解し、主体的に実践できる人材基盤の確立

チーム医療を構成する医療職には、自らの専門領域のみならずチームを構成する全ての医療職とその専門性、そのチームの持つ機能について十分な理解を有する能力を備えていることが強く求められている。自らの専門性とほかの関連職種の役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる人材を育成する。

③ 言語聴覚療法学科のめざす人材の育成 - 高い臨床能力を持ち、言語聴覚機能障害を持つ患者が抱える問題に共感できる言語聴覚士の育成 -

- ・ 患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材の育成
- ・ 言語、聴覚障害に対し、豊かな人間性、柔軟な行動力、思慮のあるコミュニケーション力の基に、専門性の高い実践的な対応ができる人材の育成
- ・ 社会の変化、医療技術の進展に合わせて、これまでに修得した専門的な知識・技能を検証し、自己研鑽できる人材の育成
- ・ 医療従事者の一人として、自らの専門性と関連する他の専門職種の役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる人材の育成

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。
2. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
3. 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
4. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
5. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
6. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法学科の開発を実践できる能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. リハビリテーション専門職としてふさわしい豊かな人間性の形成、コミュニケーション力の向上を目的に、全学教育科目を1年次から3年次にわたって配当する。
2. 1年次から2年次にかけては、科学的根拠に基づいた言語聴覚療法技術を実践するうえで理論的基盤となる専門基礎科目を中心に配当する。
3. 3年次以降は、多様な障害に対して適切な言語聴覚療法を実践するために必要な治療ならびに支援技術を学ぶ科目を配当する。また、健康維持・増進の見地から、生活習慣病予防や介護予防、職業復帰の見地から就業支援等に対応できる科目も配当する。
4. 3年次から4年次にかけては、研究法や研究セミナーの科目を配当し、社会の変化や科学技術の進展に合わせて、生涯にわたり自己研鑽していく態度を修得させる。
5. 保健・医療・福祉の分野において、関係職種と連携するための協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携に関する実践的な科目を配当する。
6. リハビリテーション専門職である言語聴覚士としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させ、臨床実践能力を涵養するために、学外での臨床実習を各学年で段階的に展開する。
7. 各授業科目の学修成果は、シラバスに明示された学修目標に対する教員よりの評価および学生アンケートなどの結果から達成状況を評価する。また、1年次における教養や基礎、2年次における臨床への指向、3年次における各専門領域の学修、4年次での総合的実践的能力の獲得といった各段階に応じた学修成果に加え、リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科所定の教育課程における卒業要件への達成状況を単位取得状況やGPAにより評価する。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる言語聴覚療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、言語聴覚士として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、探求心を持ち、自己を磨く意欲を持っている人

*基礎学力について

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

● リハビリテーション科学部カリキュラムの特色

- ① リハビリテーション従事者としてふさわしい豊かな人間性の形成と専門教育の基礎となる全学教育科目を幅広く学べるよう科目を配置している。
- ② 1年次から専門教育科目を配当することで、早期から理学療法・作業療法・言語聴覚療法分野に対する動機付けを図っている。
- ③ 専門教育科目については、科学的根拠に基づいて理学療法・作業療法・言語聴覚療法の技術を実践できる能力を身につけるために、その理論的基盤となる専門基礎科目から理学療法・作業療法・言語聴覚療法の治療技術に関する専門科目へと体系的に学習できるよう配置している。
- ④ 多様な障害に対して適切な理学療法・作業療法・言語聴覚療法を実践できる能力を身につけるために、様々な治療技術を学べる科目を設定している。
- ⑤ 保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーションサービスに携わる様々な専門職種と連携できる協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携等の実践的な演習科目を設けている。
- ⑥ 社会の変化や科学技術の進展に合わせて常に自らの専門技術を検証し、生涯にわたり研鑽していく態度を身につけるために、3年次から研究法、セミナーの科目を配置している。
- ⑦ リハビリテーション従事者としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させた実践能力を涵養するために、早期から学外での臨床実習を配置し、各年次での学習レベルに対応させて4年間にわたり段階的に展開する。

● 理学療法学科カリキュラムの特色

1. 1年次には医療人に必要な人間性を育てる全学教育科目を主として履修するが、並行して専門教育科目を履修することで、早期に専門分野に対する動機付けを図れるように配慮している。
2. 専門教育科目は、1年次に基礎医学系科目、2年次に臨床医学系科目と理学療法評価・基礎治療学系科目、3年次に各種障害に対する理学療法治療学系科目、そして3年次後期から4年次にかけて理学療法総合実習を配置し、体系的に学習できるように編成している。

(2020年度第1・2学年適用)

	1年次	2年次	3年次	4年次
DP1	英語A 英語コミュニケーションA 情報処理演習 物理学 (生物学 (選)) 日本の文学 (選) 文化人類学 (選) 経済学入門 (選) 生命科学 (選) 社会学入門 (選) 医療の法学 (選) 科学技術社会と倫理 (選) 哲学入門 (選) 化学 (選) コミュニケーション実践論 医療倫理 多職種連携入門 日本語の表現 (選)	基礎統計学 英語B (選) 英語コミュニケーションB (選) 中国語 (選) 韓国語 (選) フランス語 (選) ドイツ語 (選) 医療コミュニケーション		
DP2	リハビリテーション概論	障がい者当事者論 日常生活動作学Ⅰ・Ⅱ	臨床実習Ⅱ (検査測定実習) 地域包括ケア論 (選) 積雪寒冷地の生活と諸問題 (選) 地域理学療法学 生活環境論 (選) 地域理学療法学演習	臨床実習Ⅳ/V (総合臨床実習/地域ケア実習)
DP3	物理学 基礎数理 英語A 運動科学演習Ⅰ・Ⅱ 哲学入門 (選) 文化人類学 (選) 医療の法学 (選) 経済学入門 (選) 生物学 (選) 化学 (選) 心理学 (選) 解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ 医学概論 人間発達学 公衆衛生学 リハビリテーション概論 医療教学入門 (選) 医療物理入門 (選) 医療生物入門 (選) 理学療法概論	臨床実習Ⅰ (見学実習) 病理学 整形外科学 内科学 神経学 小児科学 臨床心理学 リハビリテーション医学 薬理学 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ (選) 栄養学 高次脳機能障害学 (選) 理学療法基礎評価学Ⅰ・Ⅱ 運動療法学Ⅰ・Ⅱ 義肢装具学Ⅰ 解剖学実習	臨床実習Ⅲ (総合臨床実習) 画像評価学 物理療法学 義肢装具学Ⅱ 骨関節障害理学療法学 神経障害理学療法学 発達障害理学療法学 内部障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ	理学療法総合講義 理学療法特講Ⅰ～Ⅴ (選)
DP4	社会保障制度論	整形外科学 内科学 神経学 小児科学 リハビリテーション医学 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ (選) 高次脳機能障害学 (選)	多職種連携論	理学療法管理・運営論
DP5	国際社会福祉論 (選)			国際協力と理学療法 (選)
DP6	生理学実習	運動学実習	理学療法研究法 理学療法研究セミナーⅠ 骨関節障害理学療法学演習 神経障害理学療法学演習 発達障害理学療法学演習 内部障害理学療法学演習	理学療法研究セミナーⅡ

(2020年度第3・4学年適用)

	1年次	2年次	3年次	4年次
DP1	英語A 情報処理演習 生命科学 英語コミュニケーションA 選択科目群 医療倫理 コミュニケーション実践論 日本語の表現 (選) 多職種連携入門	基礎統計学 選択科目群 医療コミュニケーション		
DP2	社会保障制度論		多職種連携論	理学療法管理・運営論
DP3	リハビリテーション概論	障がい者当事者論 リハビリテーション医学 日常生活動作学Ⅰ・Ⅱ	臨床実習Ⅱ (検査測定実習) 積雪寒冷地の生活と諸問題 地域包括ケア論 (選) 地域理学療法学 生活環境論 地域理学療法学演習	臨床実習Ⅳ/V (総合臨床実習/地域ケア実習)
DP4	心理学 物理学 基礎数理 運動科学演習Ⅰ・Ⅱ 選択科目群 解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ 医学概論 人間発達学 公衆衛生学 医療数学入門 医療物理入門 医療生物入門 理学療法概論	臨床実習Ⅰ (見学実習) 病理学 整形外科学 内科学 神経学 小児科学 精神医学Ⅰ 薬理学 臨床心理学 栄養学 選択科目群 理学療法基礎評価学Ⅰ・Ⅱ 運動療法学Ⅰ・Ⅱ 義肢装具学Ⅰ 解剖学実習	臨床実習Ⅲ (総合臨床実習) 画像評価学 物理療法学 義肢装具学Ⅱ 骨関節障害理学療法学 神経障害理学療法学 発達障害理学療法学 内部障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ	理学療法総合講義 選択科目群
DP5	生理学実習	運動学実習	理学療法研究セミナーⅠ 理学療法研究法 骨関節障害理学療法学演習 神経障害理学療法学演習 発達障害理学療法学演習 内部障害理学療法学演習	理学療法研究セミナーⅡ

● 作業療法学科カリキュラムの特色

1. 医療人としての教養習得や役割の理解を促す。
2. 基礎・専門科目においての高度・先進知識や技術(人の構造や機能の側面、能力的な側面、意味的な側面)の習得を促す。
3. 専門科目において、双方向の授業形態(グループワーク等)を通して、コミュニケーション能力、主体性及び協調性を培う機会の提供を行い、そこから生み出される成果を促す。
4. 段階的に学内で学んだ知識・技術や態度を、実践の場での経験を通して統合できる臨床実習の提供。

(2020年度第1・2学年適用)

	1年次	2年次	3年次	4年次
DP1	英語A 英語コミュニケーションA 情報処理演習 生物学 生命科学 物理学(選) 経済学入門(選) 文化人類学(選) 日本の文学(選) 社会学入門(選) 医療の法学(選) 科学技術社会と倫理(選) 哲学入門(選) 化学(選) コミュニケーション実践論 医療倫理 多職種連携入門 日本語の表現(選)	基礎統計学(英語B(選)) 英語コミュニケーションB(選) 中国語(選) 韓国語(選) フランス語(選) ドイツ語(選)		職業倫理・管理学
DP2	リハビリテーション概論	障がい者当事者論	地域包括ケア論(選) 積雪寒冷地の生活と諸問題(選) 地域作業療法学 ハンドセラピー 地域作業療法学演習	
DP3	生物学 基礎数理(英語A) 運動科学演習Ⅰ・Ⅱ 物理学(選) 哲学入門(選) 文化人類学(選) 経済学入門(選) 化学(選) 医療の法学(選) 心理学(選) 解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ 医学概論 人間発達学 公衆衛生学 リハビリテーション概論 医療数学入門(選) 医療物理入門(選) 医療生物入門(選) 作業療法概論 作業療法技術学演習Ⅰ 音楽理論 ソルフェージュ 楽案(鍵盤)	臨床見学 病理学 整形外科学 内科学 神経学 高次脳機能障害学 精神医学Ⅰ・Ⅱ 小児科学 リハビリテーション医学 臨床心理学 薬理学 栄養学 評価学概論 身体機能評価Ⅰ・Ⅱ 精神系評価学 発達障害作業療法学 日常生活援助学Ⅰ 発達系評価学 解剖学実習 評価学実習 作業適用学演習 作業療法技術学演習Ⅱ 楽案(弦) 伴奏法	画像評価学 日常生活援助学Ⅱ 身体障害作業療法学 義肢装具学 精神障害作業療法学 就業援助論 老年期障害作業療法学Ⅰ・Ⅱ 高次脳機能障害作業療法学 呼吸リハビリテーション学 ハンドセラピー 音楽療法(選) 音楽療法各論(選) 高次脳機能障害作業療法学演習 精神障害作業療法学実習 身体障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ 発達障害作業療法学演習 合唱 アンサンブル 音楽療法各論Ⅱ	評価実習 作業療法総合講義 即興演奏 音楽療法総合演習 教育相談(カウンセリング)
DP4	社会保障制度論	整形外科学 内科学 神経学 小児科学 高次脳機能障害学 精神医学Ⅰ・Ⅱ リハビリテーション医学	多職種連携論	職業倫理・管理学
DP5	国際社会福祉論(選)			
DP6	生理学実習	運動学実習	作業療法研究法 作業療法研究セミナーⅠ	作業療法研究セミナーⅡ
	全学教育科目(教養/健康・運動科学/外国語/情報科学/自然科学)	全学教育科目(導入/医療基盤)	リハビリテーション基礎科目	作業療法専門科目
			実習/演習系科目	音楽療法士コース科目

(2020年度第3・4学年適用)

	1年次	2年次	3年次	4年次
DP1	英語A 情報処理演習 生命科学 英語コミュニケーションA 選択科目群 医療倫理 コミュニケーション実践論 日本語の表現(選) 多職種連携入門	基礎統計学 選択科目群		
DP2	社会保障制度論		多職種連携論	職業倫理・管理学
DP3	リハビリテーション概論	障がい者当事者論 リハビリテーション医学	地域包括ケア論(選) 積雪寒冷地の生活と諸問題 地域作業療法学 地域作業療法学演習	
DP4	心理学 生物学 基礎数理 運動科学演習Ⅰ・Ⅱ 選択科目群 解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ 医学概論 人間発達学 公衆衛生学 医療数学入門 医療物理入門 医療生物入門 作業療法概論 作業療法技術学演習Ⅰ 音楽療法士コース限定必修科目群	臨床見学 病理学 整形外科学 内科学 神経学 高次脳機能障害学 小児科学 薬理学 臨床心理学 栄養学 選択科目群 評価学概論 身体機能評価Ⅰ・Ⅱ 精神系評価学 発達障害作業療法学 日常生活援助学Ⅰ 発達系評価学 解剖学実習 作業療法技術学演習Ⅱ 評価学実習 作業適用学演習 音楽療法士コース限定必修科目群	画像評価学 日常生活援助学Ⅱ 身体障害作業療法学 義肢装具学 精神障害作業療法学 就業援助論 老年期障害作業療法学Ⅰ・Ⅱ 高次脳機能障害作業療法学 呼吸リハビリテーション学 ハンドセラピー 選択科目群 言語聴覚セミナーⅠ 高次脳機能障害作業療法学演習 精神障害作業療法学実習 身体障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ 発達障害作業療法学演習 音楽療法士コース限定必修科目群	評価実習 作業療法総合講義 音楽療法士コース限定必修科目群
DP5	生理学実習	運動学実習	作業療法研究法 作業療法研究セミナーⅠ	作業療法研究セミナーⅡ
	全学教育科目(教養/健康・運動科学/外国語/情報科学/自然科学)	全学教育科目(導入/医療基盤)	リハビリテーション基礎科目	作業療法専門科目
			実習/演習系科目	音楽療法士コース科目

● 言語聴覚療法学科カリキュラムの特色

- 1年次は、他者とのかかわりにおける専門性の理解のため、自己認識、他者・組織・社会的ルール等にかかわる科目を配当する。さらに社会のグローバル化・情報化の時代への対応を可能とする科目を配当する。
- 1年次から2年次にかけては、医科学、言語科学、心理学の履修を通し、専門教育科目につながる基本的な学び、特に身体科学と対応することにより、科学的なものの見方を養成する。
- 2年次以降は専門教育科目の体系化・構造化を図り、科目の履修目的が明確となるコミュニケーション障害に関する専門領域の理解・深化を目的とした科目を配当する。
- 3年次は、言語聴覚障害の基本的援助技術を学び、専門職業人としての自覚を促す。
- 4年次は、臨床実習などを通して臨床実践力を高める。
- 近年の生物科学、情報科学の動向を理解し、技術の修得が可能な関連科目を配当する。
- コミュニケーションの問題にかかわる言語聴覚学関連、医療関連の科目を配当する。

(2020年度第1・2学年適用)

	1年次	2年次	3年次	4年次	
DP1	英語A 英語コミュニケーションA 情報処理演習 基礎統計学 生命科学 物理学(選) 生物学(選) 日本の文学(選) 文化人類学(選) 経済学入門(選) 哲学入門(選) 社会学入門(選) 医療の法学(選) 科学技術社会と倫理(選) 化学(選) コミュニケーション実践論 医療倫理 多職種連携入門 日本語の表現(選) 医療生物入門(選)	英語コミュニケーションB(選) 英語B(選) 中国語(選) 韓国語(選) フランス語(選) ドイツ語(選)	言語聴覚学総論II		
DP2	言語聴覚障害学概論 リハビリテーション概論	発声発語障害学I 摂食嚥下障害学	地域包括ケア論(選) 言語聴覚学総論I・II 発声発語障害学演習II 摂食嚥下障害学演習	臨床実習 (基礎実習)	
DP3	英語A 運動科学演習I・II 心理学(選) 哲学入門(選) 文化人類学(選) 医療の法学(選) 経済学入門(選) 基礎数理(選) 物理学(選) 生物学(選) 化学(選) 言語聴覚障害学概論 解剖生理学I・II 言語学 音声学 音声言語聴覚医学 音響学 認知心理学 学習心理学 発達心理学 リハビリテーション概論	言語聴覚診断学総論 内科学 病理学 形成外科学 医学総論 神経学 言語発達学 関係法規 心理測定法 臨床心理学 精神医学 耳鼻咽喉科学 歯科学総論 小児科学 リハビリテーション医学 口腔外科学 解剖生理学III(選) 日本語学(選) 心理言語学(選) 生理心理学(選) 失語症学I・II 言語発達障害学I 摂食嚥下障害学 聴覚障害学I 発声発語障害学I・II 聴覚障害学演習I	言語聴覚学総論I・II 高次脳機能障害学 言語発達障害学II 聴覚障害学II 失語症学演習I・II 言語発達障害学演習II 聴覚障害学演習II 発声発語障害学演習I・II 摂食嚥下障害学演習 高次脳機能障害学演習	言語聴覚学総論IV・V(選)	臨床実習 (総合実習)
DP4		内科学 小児科学 精神医学 神経学 リハビリテーション医学 歯科学総論 公衆衛生学(選) 失語症学I・II	多職種連携論 言語聴覚学総論I 社会保障制度論 高次脳機能障害学 失語症学演習I・II 高次脳機能障害学演習 発声発語障害学演習II 摂食嚥下障害学演習		
DP5	国際社会福祉論(選)		英語論文講読(選) 研究法(選)	言語聴覚学総論VI(選) 卒業研究(選)	
DP6			言語聴覚学総論I 英語論文講読(選) 言語聴覚ゼミナールI 研究法(選)	言語聴覚学総論VI(選) 言語聴覚ゼミナールII(選) 卒業研究(選)	
	全学教育科目(教養/健康・運動科学/外国語/情報科学/自然科学)	全学教育科目(導入/医療基盤)	言語聴覚学総合教育科目 言語聴覚学基礎教育科目	言語聴覚障害学教育専門科目 実習/演習系科目	

(2020年度第3・4学年適用)

	1年次	2年次	3年次	4年次
DP1	英語A 情報処理演習 基礎統計学 英語コミュニケーションA 生命科学 選択科目群 医療倫理 コミュニケーション実践論 日本語の表現 多職種連携入門	選択科目群		
DP2		医学総論	多職種連携論 社会保障制度論	臨床実習 (基礎実習)
DP3	リハビリテーション概論		地域包括ケア論(選) 言語聴覚学総論III	臨床実習 (総合実習)
DP4	運動科学演習I・II 選択科目群 言語聴覚障害学概論 解剖生理学I・II 言語学 音声言語聴覚医学 音声学 音響学 認知心理学 学習心理学 発達心理学	言語聴覚診断学総論 内科学 病理学 形成外科学 神経学 言語発達学 関係法規 心理測定法 臨床心理学 精神医学 耳鼻咽喉科学 歯科学総論 リハビリテーション医学 口腔外科学 小児科学 選択科目群	言語聴覚学総論I・II 高次脳機能障害学 言語発達障害学II 聴覚障害学II 失語症学演習I・II 言語発達障害学演習 発声発語障害学演習I・II	選択科目群
DP5			選択科目群 言語聴覚ゼミナールI 選択科目群	言語聴覚学総論VII(選) 選択科目群
DP6				
	全学教育科目(教養/健康・運動科学/外国語/情報科学/自然科学)	全学教育科目(導入/医療基盤)	言語聴覚学総合教育科目 言語聴覚学基礎教育科目	言語聴覚障害学教育専門科目 実習/演習系科目

※DP(学位授与の方針:ディプロマ・ポリシー)については、共通としており、以下のとおりである。

2020 年度第 1・2 学年適 DP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。
DP2	最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
DP3	理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
DP4	リ関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
DP5	国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
DP6	社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

2020 年度第 3・4 学年適 DP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。
DP2	近代医療は”チーム医療”がとても重要です。各医療職の専門性はますます進化していきますので、今後さらに”チーム医療力”が病院・施設などの”臨床力”として特に重要になります。自分の職種と他の職種のそれぞれの役割と専門性をきちんと理解し、患者と家族をチーム医療力でしっかりとサポートできる能力を身につけます。
DP3	医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病気やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って言語聴覚療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。
DP4	リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。
DP5	世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに言語聴覚療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追究していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につけます。

リハビリテーション科学部 理学療法学科 全学教育科目 (2020年度第1・2学年適用)

区分	授業科目	授業題目 下線:専任教員担当科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考							
						1年		2年		3年		4年									
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
全学教育科目	導入科目	基礎ゼミナール 文章指導	コミュニケーション実践論 日本語の表現	木村 ほか 浅野雅子 ほか	2 2		30 30														
	教養科目	人間と思想	心理学	松岡 敏	2		30											2単位以上修得			
			科学技術社会と倫理 哲学入門	磯部 森元	2 2		30 30														
		人間と文化	文化人類学 日本の文学 ※1	花瀬 山田	2 2		30 30												2単位以上修得		
			人間と社会	経済学入門 ※2 医療の法学 国際社会福祉論 社会学入門	金盛 姫嶋 花瀬 ほか 薄井	2 2 2 2		30 30 30 30											2単位以上修得		
	健康・運動科学科目	健康・運動科学演習	運動科学演習Ⅰ 運動科学演習Ⅱ	山口 ほか 山口 ほか	1 1		30 30														
	外国語科目	英語Ⅰ	英語A 英語B	塚越 ほか 塚越	1 1		30 30												4単位以上修得		
			英語Ⅱ	英語コミュニケーションA 英語コミュニケーションB	Cain ほか Cain ほか	1 1		30 30													
		初修外国語		中国語 韓国語 フランス語 ドイツ語	呉 申 ほか 染木 阿部	1 1 1 1				30 30 30 30											
			情報科学科目	情報処理演習 統計学	情報処理演習 基礎統計学	二瓶 ほか 二瓶 ほか	1 2		30 30												
				自然科学科目	自然科学入門	基礎数理 物理学 生物学 化学 生命科学	中野 長谷川敦 西出 鈴木壽 西出	2 2 2 2 2		30 30 30 30 30											
	医療基盤科目	多職種連携 多職種連携論 全学連携地域包括ケア実践演習	浅野葉子 ほか - -			2 1 2		30							30			30		自由選択科目 ※3	
		医療倫理 地域連携	森元 -			2 2		30							30						
		全学教育科目 合計28単位以上修得(うち必修18単位)																			

※1 環境の歴史ー日本の文学(授業題目の変更 2020.4.1~)

※2 医療の経済学ー経済学入門(授業題目の変更 2020.4.1~)

※3 自由選択科目:卒業必要単位数には含まない。

リハビリテーション科学部 理学療法学科 専門教育科目 (2020年度第1・2学年適用)

区分	授業科目 ※下線:専任教員担当科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考					
					1年		2年		3年		4年							
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
リハビリテーション基礎科目	解剖学Ⅰ	高橋	1		30													
	解剖学Ⅱ	高橋	1		30													
	解剖学実習	高橋 ほか	2				90											
	生理学Ⅰ	宮崎	1		30													
	生理学Ⅱ	宮崎	1		30													
	生理学実習	宮崎 ほか	1		45													
	運動学Ⅰ	小島	1		30													
	運動学Ⅱ	小島	1		30													
	運動学実習	小島 ほか	1				45											
	人間発達学	木村 ほか	2		30													
	医学概論	小林正 ほか	1		15													
	病理学	安彦 ほか	2		30													
	整形外科学	青木	3		45													
	内科学	高橋伸 ほか	3				45											
	神経学	中川 ほか	3				45											
	高次脳機能障害学	田村	1				15											
	小児科学	太田	2		30													
	精神医学Ⅰ	中川	2		30													
	精神医学Ⅱ	中川	2		30													
	リハビリテーション医学	小川 ほか	2				30											
	臨床心理学	松岡 敏	1				15											
	薬理学	齊藤	1				15											
	公衆衛生学	千葉 ほか	1		15													
	栄養学	澤田	1				15											
	リハビリテーション概論	岩瀬 ほか	2		30													
	社会保障制度論	志水	1		15													
	障がい者当事者論	鈴木英 ほか	1				30											
積雪寒冷地の生活と諸問題	-	1										30						
医療数学入門	長谷川敦 ほか	1		15														
医療物理入門	吉田 ほか	1		15														
医療生物入門	西出	1		15														
理学療法概論	泉 ほか	2		30														
理学療法管理・運営論	-	1															15	
理学療法研究法	-	2										30						
医療コミュニケーション	長谷川純 ほか	1				30												
理学療法基礎評価学Ⅰ	長谷川純 ほか	2				60												
理学療法基礎評価学Ⅱ	吉田 ほか	2				60												
画像評価学	-	1												15				
物理療法学	-	2										60						
運動療法学Ⅰ	宮崎	1				30												
運動療法学Ⅱ	澤田	1				30												
義肢装具学Ⅰ	武田 ほか	1				30												
義肢装具学Ⅱ	-	1											45					
日常生活動作学Ⅰ	鈴木英 ほか	1				30												
日常生活動作学Ⅱ	鈴木英 ほか	1				30						30						

理学療法専門科目

骨関節障害理学療法	-	3						45				
骨関節障害理学療法演習	-	2							60			
神経障害理学療法	-	3						45				
神経障害理学療法演習	-	2							60			
発達障害理学療法	-	2						30				
発達障害理学療法演習	-	2							60			
内部障害理学療法Ⅰ	-	2						30				
内部障害理学療法Ⅱ	-	1						15				
内部障害理学療法演習	-	2							60			
理学療法特講Ⅰ(徒手療法論)	-		1							30		
理学療法特講Ⅱ(ニューロリハビリテーション)	-		1							30		
理学療法特講Ⅲ(スポーツ障害)	-		1							30		
理学療法特講Ⅳ(急性期内部障害)	-		1							30		
理学療法特講Ⅴ(超音波画像解析)	-		1							30		
国際協力と理学療法	-		1								15	
地域理学療法	-	2						30				
地域理学療法演習	-	1							30			
生活環境論	-		1					15				
臨床実習Ⅰ	宮崎 ほか	1				45						
臨床実習Ⅱ	武田 ほか	2					90					
臨床実習Ⅲ	-	7							315			
臨床実習Ⅳ	-	8								360		
臨床実習Ⅴ	-	2								90		
理学療法総合講義	-	1									30	
理学療法研究セミナーⅠ	-	2						60				
理学療法研究セミナーⅡ	-	2									60	

専門教育科目 合計104単位以上修得

理学療法学科 合計132単位(必修122単位・選択10単位)以上修得

リハビリテーション学部 作業療法学科 全学教育科目 (2020年度第1・2学年適用)

●:学科必修 ○:音楽療法士コース必修 ◎:音楽療法士コース限定必修

区分	授業科目	授業科目 ※下線:専任教員担当科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考	音楽療法士 コース					
						1年		2年		3年		4年			履修	単位				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
全学教育科目	導入科目	基礎ゼミナール	コミュニケーション実践論	木村 ほか	2		30										●	2		
		文章指導	日本語の表現	浅野雅子 ほか		2	30											○	2	
	教養科目	人間と思想	心理学	松岡 純	2			30												
			科学技術社会と倫理	磯部	2		30													
		人間と文化	哲学入門	森元	2		30													
			文化人類学	花洲	2		30													
		人間と社会	日本の文学 ※1	山田	2		30													
			経済学入門 ※2	金盛	2			30												
	健康・運動科学科目	健康・運動科学演習	運動科学演習Ⅰ	山口 ほか	1		30													
			運動科学演習Ⅱ	山口 ほか	1			30												
	外国語科目	英語Ⅰ	英語A	塚越 ほか	1		30													
			英語B	塚越		1			30											
		英語Ⅱ	英語コミュニケーションA	Cain ほか	1			30												
			英語コミュニケーションB	Cain ほか	1				30											
		初修外国語	中国語	呉	1				30											
	フランス語	申 ほか	1					30												
	情報科学科目	情報処理演習	情報処理演習	二瓶 ほか	1		30													
			統計学	基礎統計学	二瓶 ほか	2				30										
	自然科学科目	自然科学入門	基礎数理	中野	2		30													
物理学			長谷川敦	2			30													
生物学			西出	2		30														
化学			鈴木喜	2			30													
生命科学			西出	2			30													
医療基盤科目	多職種連携	多職種連携入門	浅野葉子 ほか	2		30														
		多職種連携論	-	1						30										
	全学連携地域包括ケア実践演習	-	2								30									
	医療倫理	医療倫理	森元	2			30													
地域連携	地域包括ケア論	-	2							30										
全学教育科目 合計28単位以上修得(うち必修20単位)																				

※1 環境の歴史→日本の文学(授業科目の変更 2020.4.1~)

※2 医療の経済学→経済学入門(授業科目の変更 2020.4.1~)

※3 自由選択科目:卒業必要単位数には含めない。

リハビリテーション学部 作業療法学科 専門教育科目 (2020年度第1・2学年適用)

区分	授業科目 ※下線:専任教員担当科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考	音楽療法士 コース				
					1年		2年		3年		4年			履修	単位			
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
リハビリテーション基礎科目	解剖学Ⅰ	高橋	1		30													
	解剖学Ⅱ	高橋	1			30												
	解剖学実習	高橋 ほか	2				90											
	生理学Ⅰ	宮崎	1		30													
	生理学Ⅱ	宮崎	1			30												
	生理学実習	宮崎 ほか	1			45												
	運動学Ⅰ	小島	1		30													
	運動学Ⅱ	小島	1			30												
	運動学実習	小島 ほか	1					45										
	人間発達学	木村 ほか	2			30												
	医学概論	小林 ほか	1		15													
	病理学	安彦 ほか	2				30											
	整形外科学	青木	3				45											
	内科学	高橋伸 ほか	3					45										
	神経学	中川 ほか	3					45										
	高次脳機能障害学	田村	1					15										
	小児科学	太田	2				30											
	精神医学Ⅰ	中川	2			30												
	精神医学Ⅱ	中川	2				30											
	リハビリテーション医学	小川 ほか	2				30											
	臨床心理学	松岡 純	1				15											
	薬理学	齊藤	1					15										
	公衆衛生学	千葉 ほか	1			15												
	栄養学	澤田	1					15										
	リハビリテーション概論	岩瀬 ほか	2		30													
	社会保障制度論	志水	1			15												
	障がい者当事者論	鈴木英 ほか	1				30											
	積雪寒冷地の生活と諸問題	-	1							30								
	医療数学入門	長谷川敦 ほか	1		15													
	医療物理入門	吉田 ほか	1		15													
	医療生物入門	西出	1		15													
	作業療法概論	鎌田	2		30													
	職業倫理・管理学	-	1										15					
	作業療法技術学演習Ⅰ	浅野雅 ほか	1			30												
	作業療法技術学演習Ⅱ	浅野雅 ほか	1				30											
作業療法研究法	-	1									15							
評価学概論	岩瀬	1				15												
身体機能評価学Ⅰ	本家 ほか	2				60												
身体機能評価学Ⅱ	本家 ほか	1					30											
画像評価学	-	1							15									
精神系評価学	児玉 ほか	1						30										
発達系評価学	木村	1			30													
評価学実習	桜庭 ほか	2						90										
日常生活援助学Ⅰ	朝日 ほか	1						30										
日常生活援助学Ⅱ	-	1							30									
身体障害作業療法学	-	2							60									
身体障害作業療法学実習Ⅰ	-	1							45									
身体障害作業療法学実習Ⅱ	-	1								45								

	言語発達障害学Ⅱ	-	2						30				
	発声発語障害学Ⅰ	飯泉	2.5						38				
	発声発語障害学Ⅱ	柳田	2						30				
	摂食嚥下障害学	飯泉 ほか	2						30				
	聴覚障害学Ⅰ	前田 ほか	2						30				
	聴覚障害学Ⅱ	-	2						30				
	失語症学演習Ⅰ	-	1						30				
	失語症学演習Ⅱ	-	1						30				
言語聴覚障害学教育	高次脳機能障害学演習	-	1						30				
	言語発達障害学演習	-	2						60				
	発声発語障害学演習Ⅰ	-	1						30				
	発声発語障害学演習Ⅱ	-	2						60				
	摂食嚥下障害学演習	-	1						30				
	聴覚障害学演習Ⅰ	前田 ほか	1.5						45				
	聴覚障害学演習Ⅱ	-	1.5						45				
	基礎実習	-	4						180				
	総合実習	-	8								360		
	研究法	-		1					30				
	言語聴覚ゼミナールⅠ	-		1					30				
	言語聴覚ゼミナールⅡ	-		1								30	
	卒業研究	-		1								30	1単位以上修得
	専門教育科目 合計100単位以上修得												
	言語聴覚療法学科 合計127単位(必修111単位・選択16単位)以上修得												

	関係法規	-	1.5			23							
	社会保障制度論	志水	1					15					
	社会福祉援助技術論	澤		1				15					
言語聴覚障害学教育	失語症学Ⅰ	-	1			15							
	失語症学Ⅱ	-	1.5				23						
	高次脳機能障害学	田村	1.5					23					
	言語発達障害学	-	2				30						
	言語発達障害学特論	福田 ほか	2					30					
	成人発声発語障害学	飯泉 ほか	4					60					
	小児発声発語障害学	柳田 ほか	2.5					38					
	摂食嚥下障害学	飯泉 ほか	2					30					
	成人聴覚障害学	-	2				30						
	小児聴覚障害学	前田 ほか	2					30					
	失語症学演習Ⅰ	黒崎	1					30					
	失語症学演習Ⅱ	田村	1						30				
	高次脳機能障害学演習	黒崎 ほか	1						30				
	言語発達障害学演習	小林 ほか	2						60				
	成人発声発語障害学演習	飯泉 ほか	2						60				
	小児発声発語障害学演習	柳田 ほか	1						30				
	摂食嚥下障害学演習	飯泉	1						30				
	聴覚障害学演習	前田 ほか	3						90				
	基礎実習	今井智 ほか	2						90				
	総合実習	今井智 ほか	10							450			
英語論文講読・研究法	福田 ほか		1.5					45					
言語聴覚ゼミナールⅠ	中川 ほか	1						30					
言語聴覚ゼミナールⅡ	中川 ほか		1							30			
卒業研究	中川 ほか		1							30		1単位以上修得	
自由選択科目	臨床解剖学	-		2			30						自由選択科目 ※
専門教育科目 合計106.5単位以上修得													
言語聴覚療法学科 合計133.5単位以上修得(必修121.5単位・選択12単位以上)													

※ 自由選択科目：卒業必要単位数には含まない。